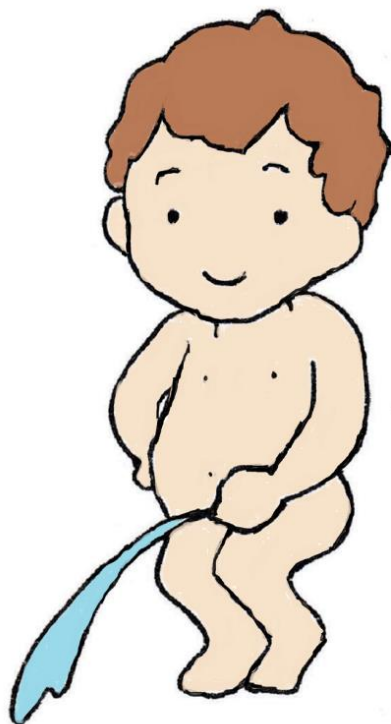


尿検査



尿検査とは

尿は身体に不要な物質を体外へ排出するために腎臓で作られます。

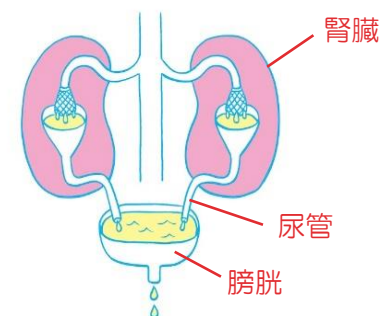
腎臓で作られた尿は尿管を通して膀胱に集められ、尿道を通じて排泄されます。

通常は身体に不要な成分と水分が尿として体外に排泄されますが、様々な疾病により、本来ならば尿中に含まれるはずのないものが混ざることがあります。

尿検査では、これらをチェックしています。

尿を用いる検査は大きく分けて4つ（尿一般検査、尿生化学検査、微生物検査、細胞診）あり、健診などで行っているのは尿一般検査です。

尿一般検査で異常がみられた場合や、何か症状がある場合にその他の検査が実施されます。

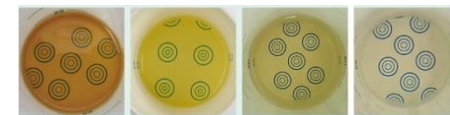


尿一般検査

当院で行っている尿一般検査の各項目についてご紹介します。

【色調】

通常、尿は淡黄～黄褐色です。尿量が多い希釈尿では色は薄く、尿量が少ない濃縮尿では色は濃くなります。



【混濁】

正常尿の多くは透明です。混濁がある場合、細菌や結晶等が混じっている可能性があります。

【比重】

尿比重は腎における尿の希釈・濃縮能を反映します。健常人でも水分摂取量、食事、運動などによって変動します。

【pH】

pH は酸性かアルカリ性かを表す指標です。健常人の尿は pH6.0 前後の弱酸性ですが、食事、運動、睡眠などの生理的要因によって幅広く変動します。

【蛋白】

腎炎、ネフローゼ症候群など腎臓に異常がある場合に陽性となります。ただし健常者でも運動後などに陽性となることがあります。

【糖】

糖尿病など血液中の糖が高い場合に陽性となります。その他血糖値は高くないのに腎臓の異常により陽性となる場合もあります。

【ケトン体】

脂肪の代謝によって作られる物質です。下痢、嘔吐、糖尿病などで陽性となります。

【潜血】

尿中に血液が混じっていないかを調べています。陽性の場合、腎炎、膀胱炎、結石などによる出血が疑われます。激しい運動後に陽性となることもあります。

【ウロビリノーゲン】

肝・胆道のスクリーニング、診断、経過観察に使われます。

【ビリルビン】

肝障害や胆道の閉塞などで胆汁の流れが妨げられると、ビリルビンが血液中に増え、それが腎臓から尿に排泄されるようになります。

【白血球反応】

腎・尿路感染症の評価、治療の適応、経過観察に活用されています。

【亜硝酸塩】

細菌が作り出す成分で、尿路感染症が起きているかどうかの指標になります。

【アルブミン】

蛋白より早期に出現し、初期の腎臓の疾患を発見することができます。

【クレアチニン定性】

尿の濃縮、希釈を補正する目的で測定されます。



その他尿からわかること

におい

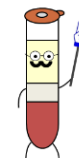
尿が甘酸っぱいにおいの場合、糖尿病の可能性があります。

トイレの回数

トイレの回数は、摂取した水分量などによっても変わりますが、1日に4～7回程度です。トイレの回数が多い場合、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、尿路結石などの可能性があります。

尿量

トイレ1回あたりの尿量は、個人差もありますが、約コップ1杯分(150～250mL)で、1日の総排尿量は1,000～1,500mL程度です。尿量が極端に少ない場合、もしくは多い場合、腎臓や内分泌代謝になんらかの異常がある可能性があります。



尿検査の提出時の注意点

- 尿の出始めは分泌物などが含まれることがあるため、容器に取らずに捨て、**途中の尿**を採取して下さい。
- 女性の方で生理中の場合、正しい検査ができないため、受付または検査室にお知らせ下さい。
- 量が極端に少ない場合は検査ができません。
25cc（検尿コップの一番下の線）程度あれば十分足りますが、それ以下でも項目によっては検査可能なため、提出時にご相談下さい。

